



Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

| | |
|---|----|
| 目的 | 2 |
| このリリースでの新機能 | 2 |
| インストール情報 | 2 |
| サポートされているプラットフォーム | 2 |
| サポートされている言語 | 2 |
| サポートされているこのリリースへのパス | 3 |
| このリリースで修正された問題 | 3 |
| 既知の問題 | 7 |
| 11.1.2.2 の詳細 Profitability アプリケーションの 11.1.2.3 へのアップグレード | 9 |
| ドキュメントの更新事項 | 11 |
| ドキュメントのフィードバック | 16 |
| アクセシビリティの考慮事項 | 16 |

目的

このドキュメントには、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Oracle Fusion Performance Management のこのリリースに関する重要な最新情報が含まれています。Profitability and Cost Management をインストールする前にこの Readme をよくお読みください。

このリリースでの新機能

このリリースの新機能については、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management New Features を参照してください。このリリースのインストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関する新機能については、Oracle Enterprise Performance Management System Readme のこのリリースの新機能に関する項を参照してください。

インストール情報

Oracle Enterprise Performance Management System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme に記載されています。EPM System 製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix にスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN) の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System 製品のサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1 サポートされているこのリリースへのパス

| アップグレード・パスのリリース: 元... | リリース 11.1.2.3 へ |
|--|--|
| 11.1.2.x | メンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 に適用します。 Oracle Hyperion Financial Close Management の場合、メンテナンス・リリースの適用はリリース 11.1.2.1 およびリリース 11.1.2.2 以降でのみサポートされています。 |
| 11.1.1.4.x | リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。 |
| リリース 11.1.1.0.x -> 11.1.1.3.x | メンテナンス・リリースをリリース 11.1.1.4 に適用してから、リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。 |
| 複数のリリースが含まれている環境。1 つの Oracle Hyperion Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境 | Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM システム製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。 |

注意:

- リリース 9.2.0.3+, 9.3.0.x, 9.3.1.x (Oracle Essbase 9.3.1.4.1, 9.3.1.5, 9.3.1.6 および 9.3.1.7 を除く) または 11.1.1.x から開始する場合、まずリリース 11.1.1.3 にアップグレードしてからメンテナンス・リリースをリリース 11.1.1.4 に適用し、続いてリリース 11.1.2.3 にアップグレードすることをお勧めします。
- より以前のリリースから開始する場合は、開始リリースからのアップグレードを直接サポートしている最上位リリースにアップグレードすることをお勧めします。
- Essbase と Shared Services との間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されていました。ただし、Essbase および Oracle Hyperion Shared Services リリース 11.1.1.3 では、セキュリティ情報は同期されます。このため、Essbase リリース 9.3.1.4.1, 9.3.1.5, 9.3.1.6 または 9.3.1.7 を使用している場合は、まずすべての製品をリリース 9.3.3 にアップグレードしてからリリース 11.1.2.2 にアップグレードし、続いてメンテナンス・リリースをリリース 11.1.2.3 に適用する必要があります。

このリリースで修正された問題

この項では、リリース 11.1.2.3.000 で修正された不具合について説明します。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、Defects Fixed Finder を使用します。このツールを使用すると、所有している製品および現在の実装リリー

スを特定できます。シングルクリックによって、修正された不具合の説明および関連するプラットフォームとパッチ番号を示すカスタマイズ済レポートが生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 16382395 -- 系統がより高速に実行されるように、系統計算に変更を加えます。
- 15958955 -- 詳細 Profitability アプリケーションでは、ソース・ステージで次元の順序を変更した後に「バルク編集」を使用する場合、重複する配賦ルール選択またはドライバ例外を作成できます。
- 15958075 -- いくつかの次元に対して「2パス計算」プロパティを使用する標準 Profitability アプリケーションでは、アウトラインを Essbase に再配置して「更新」オプションを使用すると、エラーが発生して再配置は失敗します。

回避策: アウトラインを再配置し、「置換」オプションを使用します。

- 15952742 -- 「データベースの管理」の「レポート用テーブルおよびビュー」画面で、結果のビューの属性列の名前を指定すると、属性次元の短縮名が使用されません。かわりに、実際の属性名の最初の 30 文字が列名に使用されません。
- 14668093 -- このリリースでは、新しいアプリケーション・マネージャ機能の「アプリケーションの複製」機能は使用できません。

回避策: 新しいアプリケーションを作成し、元のアプリケーションのソースと同じ次元マスター・キューブをそのソースにします。元のアプリケーションが作成されてから次元マスターのコンテンツが変更されていない場合、新しいアプリケーションは元のアプリケーションと同じになります。

- 14620404 -- 新しいアプリケーション・マネージャ機能で、次元が Essbase 次元マスターから Profitability and Cost Management アプリケーションに配置された後で、Essbase 次元マスター・キューブからソース次元を削除しないでください。これを行うと、マスターからその次元を更新できなくなります。

同様に、次元が Profitability and Cost Management アプリケーションに配置された後は、Essbase 次元マスター・キューブでその次元名または次元タイプを変更しないでください。つまり、次元タイプを定義する UDA は変更しないでください。

現在、事前更新分析オプションの既存の検証では、これらのケースはレポートされません。

- 14549948 -- Essbase 次元マスター・キューブで POV 次元メンバーをレベル 0 からレベル 0 以外に移動した場合、「次元の更新」アクションによって HPCM でそのメンバーは正しく更新されず、適切なエラーや警告が生成されません。
- 14544845 -- 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」を選択すると、「ワークスペース」メニューからの Profitability アプリケーションのリストに「Profitability アプリケーション」という名前の擬似アプリケーションが表示されます。この擬似アプリケーションは、新しいアプリケーション・マネージャ機能を起動するために使用されます。

また、擬似アプリケーション「Profitability アプリケーション」は、Shared Services Console で「アプリケーション・グループ」フォルダの「デフォルト・アプリケーション・グループ」の下に表示される場合や、「ファイル・システム

ム」フォルダのアプリケーション・リストに表示される場合もあります。これは実際のアプリケーションではなく、インポートにもエクスポートにも実際には使用できないため、このようなコンテキストにおいては無視してください。

- 14514809 -- クエリーの作成/編集の管理ウィザードで、ステップ3-「メンバー選択」画面から「戻る」ボタンを使用してステップ2-「次元レイアウト」画面に戻ると、画面が正しく機能しません。
- 14497652 -- 選択したテーブルに対するステージング・テーブルのデフォルトの4つの列(CREATED_USERID、CREATED_TIMESTAMP、MODIFIED_USERID、MODIFIED_TIMESTAMP)に、ステージング・テーブルのデータが移入されません。
- 14488136 -- 詳細 Profitability アプリケーションでは、同じ計算で2つのデータPOVを一緒に実行したときに、最初のPOVの実行で警告が発生し、2番目のPOVの実行では警告が発生しなかった場合、ジョブは(「成功(警告あり)」ではなく)「成功」のステータスで完了し、ジョブ・ライブラリのそのジョブの「警告」列に最初のデータPOVの警告はカウントされません。
- 14481677 -- 「モデル・データの登録」で、宛先ステージ・テーブルの登録を複製してから、その新しい登録を宛先ステージに割り当てると、主キー情報がソース登録からコピーされず、次のエラーで計算が失敗します:宛先ステージ・テーブルの主キーが登録されていません。

回避策:「モデル検証」の「モデル・データの登録」タブで、「検証」を実行します。このアクションによって、登録した宛先ステージ・テーブルに欠落している主キー・メタデータが検索されて保存されます。

- 14256127 -- 詳細 Profitability アプリケーションでは、「レポート・ビュー」ページで「データベースの管理」にある「配置」機能を使用すると、システム生成の次元階層レポート用ビューのかわりにテーブルが作成されるようになりました:

(HPMD_<app_name7>_<dim_short_name10>_HIER_V)。

これは、データを永続化してレポート・パフォーマンスを向上させる目的で行われます。新しいテーブルおよびそのシノニムは、次の命名ルールに従って作成されます:

HPMD_<app_name7>_<dim_short_name10>_HIER (same as the views but without "_V")。

注： データが維持されるようになったため、Oracle Hyperion EPM Architect で次元をメンテナンスした後でこれらのレポート用テーブルを再生成する必要があり、また、これらのテーブルの存続データをリフレッシュする目的で次元の変更内容を Performance Management に再配置する必要があります。

すでに詳細 Profitability アプリケーションを作成し、システム生成の次元階層レポート用ビューを配置した場合、このパッチでは、作成したこれらへの外部参照を保存する目的で、モデル・データ・スキーマ内のこれらまたはそれに一致するシノニムは削除されません。これらの外部参照 (Oracle Business Intelligence Enterprise Edition レポートなど) を妨害することなく、新しいテーブルにより実現されるパフォーマンス向上を利用するには、ビュー・シノニムを削除してから、ビューではなく新しいテーブルを参照するシノニムを同じ名前で作成します。

- 14251027 -- SQL Server を使用する Performance Management 構成のアプリケーション・パフォーマンスは、データベース統計が古くなるにつれて低下する可能性があります。この場合は、データベース管理者が SP_UPDATESTATS 関数を実行して、データベースの統計を収集する必要があります。これは、DBO ユーザーから、または SYSADMIN 役割を持つユーザーから実行できます。

注： Oracle Fusion Performance Management 製品スキーマ・ユーザーに SYSADMIN 役割を付与しないでください。これを行うと、そのユーザーのデフォルト・スキーマが変更されます。

- 14140041 -- 権限のないユーザーがアプリケーションの構成のインポートを実行することを禁止します。
- 13954655 -- MS SQL Server を使用する Profitability and Cost Management 構成では、計算で小数点以下の桁数が十分ないと一時テーブル内に金額列が使用されるために、レート・ベースのドライバの計算が正確に行われない可能性があります。
- 13810867 -- 詳細 Profitability の場合のみ、メジャーに様々なタイプのデータ (人数対通貨値など) が含まれていると、異なる値タイプが正しく区別されないために「ステージの貸借一致」レポートに正確でない結果が示される可能性があります。

正しい結果を取得して、「ステージの貸借一致」ビューの結果の正確さを保証するには、次のように統計メジャーを配置します:

- 垂直および水平のソース・テーブルでは、結合された参照テーブルにすべての統計メジャーを配置します。
- (垂直または水平の) ソース・テーブルに統計メジャーを直接配置するには、「ソース・メジャー・タイプ」という新しい次元を作成し、この「入力」メンバーをすべての非統計メジャー・メンバーに割り当てます。
- 13800625 -- 詳細 Profitability の場合、不足しているデータベース権限をチェックするため、追加のモデル検証が求められます。
インストール後に、次の権限を割り当てます:
 - Oracle データベースの場合、詳細 Profitability では次のシステム権限 (またはそれを含む役割) を製品スキーマに付与する必要があります。

CREATE TABLE

CREATE VIEW

CREATE ANY SYNONYM

DROP ANY SYNONYM

- SQL Server の場合、詳細 Profitability では次のシステム権限(またはそれを
含む役割)を製品スキーマに付与する必要があります。
 - CREATE TABLE
 - CREATE VIEW
 - 製品スキーマに対するモデル・データ・スキーマの ALTER または
CONTROL(製品スキーマがモデル・データ・スキーマのオブジェクト
を変更できる)

注： Oracle ではユーザーとスキーマは同じとみなされますが、SQL Server では個別のエンティティとみなされます。SQL Server ベースのインストールの場合、詳細 Profitability ではモデル・データ・スキーマと同じ名前のユーザーを作成することが求められ、このユーザーはモデル・データ・スキーマ内のすべてのオブジェクトに対する権限を備える必要があります。

- 12408753 -- 情報が格納されたデータベースがインポート中にオフラインになると、アプリケーションに正確でないステータスが表示されます。
- 9074381 -- 配置がすべて正常に完了したときには、Profitability and Cost Management アプリケーションがユーザーに表示されることがベストです。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

- 16463811 -- Internet Explorer バージョン 7 または 8 を使用する場合、Profitability and Cost Management の UI ページのいくつかの場所で、テキストがテーブルまたはグリッド内に表示されるときに文字の末尾('g'、'j'、'p'、'y'など)が切り捨てられます。
- 16439312 -- WebLogic アプリケーション・サーバーが埋め込まれた Oracle HTTP サーバーを使用する場合: アーティファクトのないファイル(0 バイトのファイル)をインポートすると、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Lifecycle Management に障害が発生します。
- 16191318 -- 詳細 Profitability の場合、宛先配賦ルールに参照テーブルからのメジャーを使用するカスタム・フィルタが含まれていると、計算は失敗します。
- 16163536 -- AAM を介して作成された複製アプリケーションには、UDA または属性の関連付けがありません。

回避策: UDA 属性の関連付けが含まれる同じアウトラインに基づいて、新しいアプリケーションを作成します。

- 15879378 -- ドライバ次元の名前に空白が含まれる場合、ステージ・インポートまたはエクスポートが正しく行われません。
- 15840548 -- Essbase でクエリーを実行すると、次の例外エラーが発生する可能性があります: 「ESS EXCEPTION: メイン・メンバー情報を取得できません。Essbase エラー(1013104)。」

回避策: Profitability アプリケーションからのアプリケーション配置が失敗した場合、Windows オペレーティング・システムのドキュメントでの推奨手順に従って、Windows レジストリ TCP/IP パラメータ(TcpTimedWaitDelay および MaxUserPort)を変更できます。

- 14593199 -- 新しいアプリケーション・マネージャ機能で、アプリケーションを連続して作成すると、MS SQL Server の使用中にデータベースのデッドロックが発生する可能性があります。
- 13827118 -- 詳細 Profitability の場合、EPM Architect で新しいアプリケーションを作成する際に、アプリケーション名にマルチバイト文字(日本語など)を使用しないでください。アプリケーション名を入力する際は、ASCII 文字のみを使用してください。

注: マルチバイト文字は EPM Architect では使用できますが、Profitability and Cost Management ではサポートされていません。

- 13504316 -- 詳細 Profitability の場合、選択した前処理スクリプトおよび後処理スクリプトが実行されるのは、「計算の管理」画面で「計算の実行」チェック・ボックスが選択されている場合のみです。
- 13322887 -- 非 Unicode の標準 Profitability アプリケーションでは、計算用またはレポート用データベースの名前にマルチバイト文字を使用しないでください。データベース名には ASCII 文字のみを使用します。
- 10008989、10270387 -- 接頭辞と次元名の長さの合計が 80 文字を超えると、Essbase への配置が失敗します。

次元名と接頭辞名の連結が 80 文字を超えてはいけません。

- 9562829 -- 「データの入力」画面の「ドライバ・データ」タブで、以前選択されていない 0 レベル以外のメンバーをダブルクリックすると、ビジー・インディケータが表示され、選択した 0 レベル以外のメンバーが正しく展開されません。

回避策: 最初に行をクリックして選択し、続いてダブルクリックして選択を展開します。

- 9309229 -- メジャー次元に対する属性次元メンバーの関連付けが Profitability and Cost Management に配置されません。この機能は現在サポートされていません。
- 9289136 -- インストール後に初めて新規インストール構成を作成する場合、インポート構成を開くと、データ・ソース詳細が欠落しており、構成を編集または実行できない場合があります。

回避策: サービスを再起動してから、インポート構成を開きます。

- 8449860 -- モデルにグローバル・ドライバがロードされている場合、計算スクリプトの実行後にすべてのステージに対して「すべて消去」を選択しても、グローバル・ドライバ・メジャーは削除されません。ステージの指定がないため、ステージが消去されてもグローバル・データは消去されません。
- 7228966 -- Essbase に Profitability and Cost Management アプリケーションが配置されると、次元名に定義済のステージ接頭辞が付いたステージ次元が Essbase に作成されます。結果の次元名が、アプリケーションの既存のメンバー名または次元名と同一の場合は、Essbase キューブの配置に失敗します。
回避策: モデルに定義を作成する際に、結果の Essbase 次元名が結果のアウトラインで一意になることを確認してください。
- 7192173 -- ユーザー・インタフェースにおける別名のフィルタ処理は、今回のリリースでサポートされません。割当てルールで名前をフィルタ処理する場合は、名前と別名の両方で一致するものが検索されます。
- 6979576 -- HPM_STG_STAGE 表からのインポートを使用する場合、ステージ順序が正しく更新されません。
- 6854689 -- 配賦の合計パーセンテージが 100 を超える場合、配賦は正しく計算されません。

ライフサイクル管理

- 16439312 -- WebLogic とともにシステムが構成されている場合、0 バイトのアーティファクト・ファイルをインポートしようとする、ライフサイクル管理のインポートが失敗し、次のようなメッセージが表示されます: 1 を 1 アーティファクトからインポートできませんでした。。実際は、ジョブが「失敗」ステータスで終了してこのメッセージが表示されても、その他のアーティファクト・タイプについてはすべてのアーティファクトが正常にインポートされているため、このタイプのエラーは無視してかまいません。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理のインポート・ジョブの失敗ステータスを回避するには:

1. インポート時の失敗を回避するには、存在していないことがわかっているアーティファクト・タイプを選択しないでください。これにより、0 バイトのファイルが作成されることがなくなります。
2. 0 バイトのファイルがインポートされないようにするには、インポート前にインポート・ファイルに 0 バイトのファイルが存在しないか確認し、これらのアーティファクト・タイプの選択を解除します。

11.1.2.2 の詳細 Profitability アプリケーションの 11.1.2.3 へのアップグレード

Profitability and Cost Management アプリケーションを以前のリリースからアップグレードするには、ステージング・インポートで使用するステージング・テーブルをユーザー・ステージング・スキーマ内に再作成する必要があります。

▶ ステージング・テーブルを再作成するには:

- 1 ステージング・データをバックアップしたことを確認します。
- 2 適切な削除スクリプト(drop_staging.sql または drop_dp_staging.sql)を実行します。
- 3 これらのテーブルに対して適切な create 定義スクリプトを実行します。これらは次に含まれています:
 - create_staging.sql (標準 Profitability アプリケーションおよびカスケード Profitability アプリケーションの場合)
 - create_dp_staging.sql (詳細 Profitability アプリケーションの場合)
- 4 ステージング・データをテーブルに移入します。
- 5 適切なインポートを実行します。

11.1.2.2 アプリケーションでの「ステージ・オブジェクトの計算」アーティファクトは、11.1.2.3 では「計算済メジャー」タイプの「計算ルール」に置き換わりま

す。これらは、アップグレード中に変換されます。
HPM_STGD_OBJECT_CALCULATION ステージング・テーブルは非推奨になりました。計算済メジャーの計算ルールのロードには、
HPM_STGD_CALCRULE_CALCMSRS テーブルが使用されるようになりました。

また、11.1.2.3 でのライフサイクル管理(LCM)には下位互換性があり、11.1.2.2 からエクスポートした Profitability and Cost Management アーティファクトをインポートできます。ステージ・オブジェクトの計算は、計算済メジャーの計算ルールとしてインポートされます。

いずれの場合も、新しく作成またはインポートされた計算済メジャーの計算ルールのシーケンス番号は、最後に実行されることを示す 9999 に設定されます。11.1.2.3 へのアップグレード後、または 11.1.2.2 モデルを 11.1.2.3 アプリケーションにインポートした後は、モデルのロジックが必要であれば、新しい計算済メジャーの計算ルールのシーケンス番号を変更して、モデル内の他の計算ルールより先に実行されるように指定できます。

このリリースでは、すべての配賦が計算ルールを介して実行されます。

11.1.2.3 へのアップグレード後、1 つ以上の単一ソース配賦の計算ルールを作成して、以前に定義された配賦ルール選択を取得する必要があります。

すべての配賦ルール選択を取得するには、「すべてのドライバ」・チェック・ボックスを選択して単一ソース・ルールを作成します。

ドキュメントの更新事項

サブトピック

- [EPM System 製品ドキュメントへのアクセス](#)
- [PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け](#)
- [ユーザー・ガイド](#)
- [外部の自動化](#)

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新バージョンは、OTN Web サイトの「EPM System Documentation」領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)からダウンロードまたは表示できます。EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもでき、ここからも EPM Supported Platform Matrices、My Oracle Support およびその他の情報リソースにリンクできます。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

ユーザー・ガイド

メンバー・プロパティに割り当てられたブロック・ストレージ・オプション(BSO)データ・ストレージ値の表示

注: この項は、付録 A: 「Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャ」に追加されます。

どの BSO データ・ストレージ値がメンバーに割り当てられるかを理解するには、HPM_DIM_MEMBER_PROP_V ビューを使用して、BSO 計算キューブに対する Oracle Essbase への配置が失敗した日時をデバッグします。

このビューは次の列で構成されています:

APPLICATION_NAME

DIMENSION_NAME

MEMBER_NAME

BSO_DATA_STORAGE

DIMENSION_STORAGE_TYPE

ビューがクエリーされると、配置された各 Profitability and Cost Management アプリケーションの次元メンバーごとに 1 行が戻されます。

属性次元の名前指定

注： この項は、付録 A: 「Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャ」に追加されます。

マスター・キューブの属性次元の次元名は、ASCII 文字(英字と数字)のみを含める必要があります。属性次元名の最初の文字は英字(a-z または A-Z)にする必要があります。15917966

計算済メジャー・ドライバの操作

注： この項は、第 16 章: 詳細 Profitability の配賦の管理に追加されます。

計算済メジャー・ドライバは、ソース/宛先のコンテキストがなくても値の計算に適用できるカスタムの数学的計算です。計算結果は、ドライバ値として使用できます。

計算済メジャー・ドライバでは宛先ステージのみが処理されるため、宛先を指定する必要があります。ドライバ定義に基づいて、カスタム・ドライバの式で指定した値は、ドライバ定義で指定したメジャーの宛先に送信されます。

たとえば、カスタム式を作成して次の例のようなタスクを計算できます:

- 請求金額、平均支払い日、利率など、宛先オブジェクトにすべてのパラメータが存在する場合に、貨幣の時間的価値を計算します。
- 宛先にユニット費用とボリュームが存在する場合に、請求行の拡張費用を計算します。
- 宛先にユニット費用とボリュームが存在する場合に、商品の標準コストを計算します。

次の手順を参照してください:

- [13 ページの「計算済メジャー・ドライバの定義」](#)
- [13 ページの「計算済メジャー・ドライバの変更」](#)
- [14 ページの「計算済メジャー・ドライバの削除」](#)

計算済メジャー・ドライバの定義

▶ 計算済メジャー・ドライバを定義するには:

- 1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace から、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
- 3 「ドライバ定義」で、「新規ドライバの追加」ボタンをクリックします。
- 4 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。

注意 /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

- 5 **オプション:**「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。
- 6 「宛先メジャーへの書込み結果」で、「参照」ボタンをクリックし、ドライバにより配賦値が書き込まれる宛先メジャーを選択して「OK」をクリックします。
- 7 「ドライバの定義」の「演算タイプ」で、「計算済メジャー」を選択します。
- 8 「シーケンス優先度」で、計算の優先度を正の整数で入力します。デフォルトでは、100 が表示されます。最も高い優先度は1です。
- 9 「計算式」で、カスタム・ドライバ式を入力します。
キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成できます。
「挿入」セレクタを使用するには:
 1. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクタを表示します。
 2. リストから、「宛先」を選択して、使用可能な宛先メジャーを表示します。
 3. 次元リストから、式のメジャーを選択します。
 4. 「OK」をクリックします。
- 10 式を入力した後、「検証」をクリックします。
SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。
- 11 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。

計算済メジャー・ドライバの変更

▶ 計算済メジャー・ドライバを変更するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを変更するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

3 「ドライバ定義」で、「ドライバの編集」ボタンをクリックします。

選択したドライバの「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4 「ドライバの定義」で、選択したドライバについて次のパラメータのいずれかを変更します:

- 名前
- 説明
- 演算タイプ
- シーケンス優先度
- 宛先メジャーへの書き込み結果

注意 /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

5 **オプション:** 「計算式」でカスタム式を変更し、「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

6 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。

変更したドライバを計算結果に適用する場合は、モデルを再計算する必要があります。

計算済メジャー・ドライバの削除

注意 ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用しているステージ計算済メジャーもすべて削除されます。

▶ 計算済メジャー・ドライバを削除するには:

- 1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace から、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、削除するドライバを含むアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
- 3 「ドライバ定義」で、削除するドライバを選択します。
- 4 「削除」ボタンをクリックします。
- 5 「はい」をクリックして、ドライバの削除を確認します。

レベル0のコントリビューション・レポートの生成

注: この項は、第 III 部: 「詳細 Profitability モデルの操作」に追加されます

一般的な詳細 Profitability アプリケーションには、ソース・ステージと宛先ステージの間に 1 つ以上の重複する次元が含まれることがあります。たとえば、BksDP30 サンプル・モデルでは、顧客次元および製品次元はソース・ステージと宛先ステージの両方で使用されます。

このため、レベル 0 のコントリビューション・ビュー(サンプル・モデルでは HPMD_BKSDP20_LEVEL_0_CONTRIB_V)には、これらの重複する各次元に対して 2 つの列(ソース・コンテキスト用と宛先コンテキスト用)が含まれることとなります。

このビューを使用して Oracle BI EE でコントリビューション・レポートが正常に生成されるように、OBIEE の物理レイヤー内のシステム生成の次元レポート用ビューを正しく登録する方法を習得して、それぞれがレベル 0 のコントリビューション・ビューの次元列の両方のセットに正しく結合されるようにする必要があります。物理レイヤー内に、レベル 0 のビューから同じ次元への 2 つの別名テーブルを作成する必要があります。たとえば、レベル 0 のビューは、ソース(SRC)用と宛先(DST)用に 1 回ずつ顧客次元に結合する必要があります。

次の手順では、この方法の例として、サンプル・モデル内の顧客次元から階層次元ビューを使用しています。

▶ レベル 0 のコントリビューション・レポートを生成するには:

- 1 Oracle Business Intelligence Enterprise Edition にログインし、Profitability and Cost Management リポジトリに移動します。
- 2 物理レイヤーで、レポートに使用する次元ビューを右クリックし、「新規オブジェクト」>「別名」を選択します。
たとえば、別名テーブルのモデルとしてサンプル・モデル内の「HPMD_BKSDP20_CUSTOMERS_HIER_V」をクリックします。
- 3 新しいソース別名テーブルの名前(HPMD_BKSDP20_SRCCUST_HIER_V など)を入力し、「OK」をクリックします。
- 4 物理レイヤーで、次元ビューを再度右クリックして、「新規オブジェクト」>「別名」を選択します。
- 5 新しい宛先別名テーブルの名前(HPMD_BKSDP20_DESTCUST_HIER_V など)を入力し、「OK」をクリックします。
- 6 物理レイヤーで、次のオブジェクトを選択し、右クリックして「物理ダイアグラム - 選択したオブジェクトのみ」を選択します:
HPMD_BKSDP20_SRCCUST_HIER_V
HPMD_BKSDP20_DESTCUST_HIER_V
HPMD_BKSDP20_LEVEL_0_CONTRIB_V
- 7 ダイアグラムで、新しい別名テーブルそれぞれとレベル 0 のコントリビューション・ビューの間に物理結合を作成します。
- 8 ソース別名テーブルおよび宛先別名テーブルをビジネス・モデル・レイヤーにドラッグします。
- 9 プレゼンテーション・レイヤーで、レベル 0 のレポートを変更して、新しい別名テーブルそれぞれからの列を含めます。

物理テーブルおよび別名の操作の詳細は、Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition メタデータ・リポジトリ作成者ガイド 11g リリース (11.1.1)の第7章:「物理テーブル、キューブおよび結合での作業」を参照してください。

外部の自動化

processGenealogyPathsWithoutASOCubeClear 操作の項で、次の注意書きが更新されています:

注: この Web サービス操作の使用目的は、標準原価計算 Oracle Hyperion Profitability and Cost Management アプリケーションで複数の POV に対してシステムを実行することです。processGenealogyPathsWithoutASOCubeClear は、同じ POV に対して複数のシステム計算を実行するためのものではありません。

ドキュメントのフィードバック

製品ドキュメントに対するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください。

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトの EPM 情報開発をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- ツイッター - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。EPM System 製品では、アクセシビリティ機能をサポートしています。アクセシビリティ機能については、製品のアクセシビリティ・ガイドで説明しています。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System Documentation Library (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>) にあります。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

著作権情報

Profitability and Cost Management Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。